

図書館だより

第 33 号

2007.11.14

Library Letter



医療科学部のみなさん および医療・福祉に関心のあるみなさんへ

今年度より医療科学部が新設されました。図書館ではリハビリテーションに関する資料を多数揃えましたので、大いに活用してください。

■まずはこんな本から読んでみよう！

『脳から見たリハビリ治療』 久保田競、宮井一郎編著 ブルーバックス 講談社
(請求記号：491.371/Ku14)



脳卒中により、一部の脳細胞は死んでしまう。ではなぜ、麻痺や障害が起こった身体がリハビリにより再び機能を取り戻せるのか？最新の研究により、この回復過程で、残された脳細胞が柔軟に役割や構造を変えていることが明らかになってきました。本書ではそのメカニズムを豊富なデータで示し、脳のことを考えた21世紀のリハビリ治療の考え方を解説しています。

『理学療法士になるには』 丸山仁司著 ペリかん社 (請求記号：366.29/N53/67)



理学療法を理解することは、職業を選ぶときばかりでなく、本人または肉親など身近にいる人が病気やけがによって障害をもったときに、適切な判断を行ううえでとても役立ちます。本書は、さまざまな分野で活躍している理学療法士のドキュメントや、理学療法士の業務内容、活動分野などについて解説しています。また、理学療法士の適性と心構え、国家試験と就職等についても詳しく紹介しています。理学療法と理学療法士についての全体像がわかる1冊です。

『パラリンピックがくれた贈り物』 佐々木華子著 メディアファクトリー (取り寄せ中)

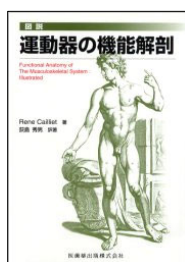


ある日突然、それまでの人生を変えてしまった事故や病気。挫折と障害を乗り越え、見事、アテネパラリンピックへの切符を手にした6人のアスリートたちの感動の物語です。数多の絶望や困難と向き合いハンディキャップに挫けそうになりながらも、そのたびに辛苦や試練をたゆまぬ努力で乗り越えてきた姿を描いています。

■リハビリテーション学科助教 廣瀬昇先生おすすめの専門図書

『図説 運動器の機能解剖』 R. Calliet 著；荻島英男訳 医歯薬出版社
(請求記号：419.16/C12)

理学療法士は、患者の身体の動きについて客観的に捉え、障害者に対し、適切に治療や指導を進めていく義務があります。また、それには、まず、身体の動きそのものがどのようなものであるかを十分に理解する必要があります。とりわけ、理学療法士として必要な知識や技能を修得する上では、解剖学、生理学、運動学といった医学の基礎知識について学んでいくわけですが、なかでも身体の動きの不思議について答えてくれるのが、『図説 運動器の機能解剖』という図書です。

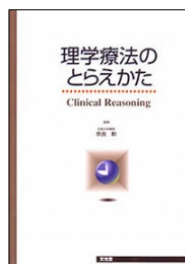


私が学生の時、病院実習にて整形外科疾患の患者を初めて担当した時に、何度も読み返した記憶があります。本書の大部分は、関節構造体と関節の動きについての記述が多く見られますが、それを読み解くことで、身体の仕組みが理解できますし、また、題名にもありますように図説が多く記載されています。これから医学を勉強する初心者の方でも十分に読みこなすことができる本です。人や動物の身体の動きの秘密について興味のある方は是非一読ください。

『理学療法のとらえかた Part1~Part4』 奈良 勲, 内山靖著 文光堂
(請求記号：492.5/N51/1~4)

理学療法士は、一方では医療の分野において、ICUやCCU、SCUといった集中治療室の現場での業務に従事し、救急医療の治療的側面の一端も担っていますし、また一方で、福祉の分野において、自宅に訪問し、個々の生活の質の向上のために日常生活により適したリハビリテーションを行う在宅医療といった一端も担っています。また、プロスポーツの専属トレーナーとなるものもあります。

このように理学療法士はととても多岐に亘り、医療や福祉といった分野でそれぞれの役割を果たしていますが、はじめからすぐにそのような分野で最前線を担う人材となるものではありません。そのような人材になるには、常に身の周りに起こる事象について「なぜだろう」と感じ、追及する姿勢が大切ですし、そのモチベーションこそが、患者や対象者に対し良き治療を施術できていると思っています。



今回、紹介する『理学療法のとらえかた』という図書は、その理学療法の専門領域において、「なぜだろう」といった読者の投げかけに対し、適切にかつ比較的わかりやすく説明している図書です。シリーズもので4冊もありますが、頑張って読んでみてください。きっと何かが見えるはずですよ。

■雑誌から最新の情報をゲットしよう！

『理学療法ジャーナル』 医学書院 月刊

タイトルの通り、理学療法の技術や知識を図や写真を多用してわかりやすく紹介していま

す。「入門講座」や「1 ページ講座」など、資格取得に向け勉強中の学生や新米理学療法士向けの記事も掲載されています。就職情報もあります。

『総合リハビリテーション』 医学書院 月刊

リハビリテーション領域全てを対象とし、学術論文、調査、症例報告、学会報告など種々の記事があり、ニューストピックも豊富に掲載されています。「実践講座」など手法に関する記事なども実践的です。

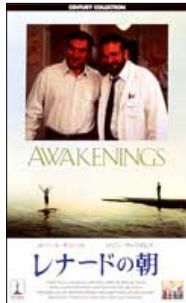


『Journal of Clinical Rehabilitation』 医歯薬出版 月刊

本文は日本語です。臨床を基本に据え、医療現場に密接した内容の記事が掲載されています。特集記事の各論文には「内容のポイント Q&A」がついていて、理解を深められるよう工夫されています。

■映画から病気や医療に対する理解を深めよう！

「レナードの朝」 ソニー・ピクチャーズエンタテインメント 120分 (請求記号: FF135)



幼い頃にウィルスによる伝染性の嗜眠性脳炎にかかり、30年もの間、半昏睡状態だった男レナード。新しく赴任してきた医師セイヤーは、彼に実験的に新薬を投与し、機能回復を試みる。ある朝、レナードは奇跡的に目覚める。医師は他の患者にもその薬を投与し、次々に嗜眠性脳炎患者たちを目覚めさせることに成功するが…。

治療不能の難病に苦しむ患者とその治療に励む医師の姿を通し、人間の尊厳、友情と愛情を見事に描き上げた感動のヒューマン・ドラマ。精神科医オリヴァー・サックスの実体験による著作『Awakenings』を基に製作された。監督はペニー・マーシャル。奇跡的に回復する患者レナードをロバート・デニロが、治療に励む医師をロビン・ウィリアムズが演じている。

「レインマン」 フォックスホームエンターテイメントジャパン 135分 (請求記号: FF136)



事業に失敗して破産寸前のチャーリーのもとに、絶縁状態だった父の訃報が届いた。300万ドルのばく大な遺産を目当てに帰郷するチャーリー。だが、すべての遺産は、存在さえ知らなかった自閉症の兄、レイモンドの手に渡ることになると知ってショックを受ける。

本作で主演男優賞を受賞したダスティン・ホフマンの演技は、「本当に演技なの？」と思ってしまうほどリアルだ。見ているうちに自閉症という病気への理解も深まる。遺産を自分のものにしようというもくろみから始まった出会いだが、今までまったく違う人生を歩んできた兄弟が次第に心を通わせていく。兄弟のふれあいを描いたヒューマン・ドラマ。アカデミー賞主要4部門に輝き、日本でもロングヒットをとばした名作。監督はバリー・レヴィンソン。弟のチャーリーはトム・クルーズが演じている。

「小説書こうか、映画作ろうか」

環境科学科講師 篠原 正典



「小説を書こう。」
もう 10 年以上前のことだ。イルカに体当たりで挑むような研究に疲れていた大学院生のある時期、真剣にそう思った。A4・30 枚は書いた。いま思えば、大学院生にありがちな単なる逃避にすぎないのだが、渡辺淳一の『白夜』（大学病院の助教授から作家に転身した過程などが描かれている）を読んでいた影響も大きかったのかもしれない。

その小説は、恋愛や活劇は 0。主人公は 50 歳を越えた更年期をむかえる女性である。子供を産めない体（＝おばあちゃん）への突入を目前に心身が参るのだが、ある切っ掛けでクジラやゾウにもその人生におばあちゃん期間があり、それが生物としての確かな役目があることを知る。これを契機に、人生観が変わり前向きになり……というあらすじだった。生物学でいう「おばあちゃん」仮説、これを小説という形で紹介してしまおう、その方が研究するより手っ取り早いし、幅広く伝わる

だろう、という目論見でもあった。大型動物の研究は本当に大変なのだ。研究対象動物一頭の寿命が、こちらの研究者寿命より長かったりするのだから……。

残念ながら、その小説は未完のままだ。友達に「渡辺淳一の文章そっくりじゃん。」と一笑され、あっさり投げ捨ててしまった。そもそも、ものすごい即断で始めた行動であり、投資も 0 に近く、未練は全くない。

今は、小説ではなく映画が作りたい。理由は、単に映画が好きだからだが、できればイルカ研究の仲間との共同制作がしたい。妄想に近い夢かもしれないが「逃避ではない」と自信をもって言える。しかし、冷静に考えれば、そうした研究仲間の共同体がつけれるならば、本来の専門とは異なる映画などという分野で労力のかかる作品を創るより、まず真剣に鯨類研究に取り組みばどうなのか。個人の研究者寿命など気にならなくなり、映画製作などもどうでもよくなるぐらい面白い鯨類研究が展開できるのではないか……などと、あれこれ妄想しながら暮らしている。

* * * * *

お知らせ

年末年始（12月21日～1月5日）の開館時間は下記の通り変更となります。

12月21日	9:20～16:30
12月22日	9:20～12:00
12月23日～24日	休館
12月25日～27日	9:20～16:30
12月28日～1月4日	休館
1月5日	9:20～12:00



帝京科学大学附属図書館
山梨県上野原市八ツ沢 2525
TEL 0554-63-6914
FAX 0554-63-4432
E-MAIL library@ntu.ac.jp
<http://www.lib.ntu.ac.jp:8080/>

発行 2007年11月14日